

令和7年第6回半田市議会定例会 決算審査総務委員会委員長報告書

当総務委員会に付託された案件については、
9月12日は午後1時30分から、18日及び25日は午前9時30分から、
いずれも委員会室において、委員全員出席のもと、慎重審査しましたので、
その経過と結果をご報告申し上げます。

初めに、認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、
補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

一般会計について、

まず、企画部所管では、

2款1項1目、人事管理事務について、採用試験倍率の目標値1.4倍に
対して、実績値9倍とあるが、目標値に届かなかった原因はどう考えて
いるか。とに対し、

平成24年度から試験日程を早めることで、受験者の確保に努めて
きましたが、近年では、他の自治体でも同様の日程で試験を実施するよう
になり、自治体間の競争が激しくなってきたことや全国的に公務員試験の
受験者が減少していることが主な要因であると考えています。とのこと。

また、令和6年度の正規職員数は足りていたか。とに対し、

現状、正規職員数は不足していますが、不足している部分を会計年度任用
職員で賄うことで、業務に支障が生じないよう努めています。
また、デジタル化の推進による事務負担の軽減にも取り組んでいます。今後、
業務量の増加などにより、正規職員の増員が必要となる場合には、職員定数
の引き上げを考えていきます。とのこと。

同項2目、広報事務について、ホームページへのアクセス数が減少して
いるが、アクセス数を増やすために、どのような取り組みを行ったか。
とに対し、

ホームページのイベントカレンダーを充実させ、市報にQRコードを
掲載するとともに、市の公式LINEにもリンクを設けることで、
ホームページへの誘導を図りました。とのこと。

同項６目、幸せになるための教育を実現する会議運営事業について、令和６年度の成果は何か。とに対し、

幸せになるための教育を実現する会議からの提言を参考に、自分にとっての幸せは何かを考え、そこに向かって自ら行動できる能力を育てていくという趣旨を教育大綱の基本方針に加えたことで、今後の道筋を示すことができました。とのこと。

同項８目、ＤＸ推進事業について、令和７年１月から３月に生成ＡＩを導入し、実証実験を行ったが、費用対効果はどのようなだったか。とに対し、

サービス利用料３９万６千円に対し、５５０時間の業務時間削減効果が得られたため、費用対効果としては高かったと認識しています。とのこと。

また、生成ＡＩに対する個人情報の取り扱いについて、セキュリティ対策をどのように行ったか。とに対し、

生成ＡＩの使用時におけるセキュリティ対策として、マイナンバーなどの個人情報を読み込まない機能を保有しているサービスを選定しました。とのこと。

同項１１目、はたらく親を応援する団体育成事業について、申請団体が１団体にとどまった要因をどのように分析しているか。とに対し、

新規事業のため、令和６年度が始まってから募集を行ったことや、事業の開始時期が１０月からであったことから、団体が実施事業を考える上では、困難な条件となっていたと考えています。とのこと。

同項１２目、小学校区コミュニティ活動支援事業について、当初の目的である自治区の負担軽減や担い手不足を解消するために取り組んだことは何か。とに対し、

自治区の現状をアンケート調査することや情報共有を行うことで、負担軽減等に対する具体的な施策を協議しました。とのこと。

また、小学校区コミュニティの理解促進について、地域の理解に差が生じていることをどのように考えているか。とに対し、

区長を窓口として、地域の声を確認し、今後、どこまでの説明が必要になるかを丁寧に話し合いながら、地域に出向き、住民や学校関係者と話をすることで、正しい理解が広がるよう、努めていきたいと考えています。と

のこと。

次に、総務部所管では、

歳入、17款2項1目、財産収入について、行政財産を普通財産として売却する判断基準はどのようなか。とに対し、

中心市街地や公共施設に隣接している土地を売却する考えはありませんが、市として将来にわたって活用する見込みがない土地は、固定資産税の増加や定住者の増加につなげるため、売却する方針としています。とのこと。

19款1項1目、財政調整基金繰入金を企業再投資促進補助金へ充当した理由は何か。とに対し、

企業再投資促進補助金は、大きな金額となることから、一般財源で
まかな^{まかな}うと、他^たの事業に影響を及ぼすおそれがあるため、財政調整基金を
取り崩して、対応したものです。とのこと。

同項9目、公共施設整備基金繰入金について、9億7千万円を取り崩した結果、基金残高が30億円から21億円に減少したが、今後の財源確保策は何か。とに対し、

財政調整基金が令和7年度末に目標額の70億円に達する見込みのため、
今後は、公共施設整備基金に積立てていく予定です。とのこと。

歳出、2款1項12目、情報公開・個人情報保護事務について、個人情報漏えいが7件発生したが、どのように市民へ説明を行ったか。とに対し、

情報漏えいが発生した際に、該当者に事実と対応策を速やかかつ丁寧に
説明し、市民の不安解消に努めました。とのこと。

また、今回の情報漏えいを受け、再発防止策としてどのような取り組みを
行ったか。とに対し、

どのように事務を変えるとシステムの再発を防げるか、担当課長と
総務課で協議をし、対策がとられたか確認を行いました。また、各課で
起こった事案を情報共有し、自身の業務に置き換えて、同様の事案が発生
しないよう、業務の改善を図っています。とのこと。

同款2項2目、市民税等賦課事務について、徴収アドバイザーの役割は
何か。また、配置する必要性があるか。とに対し、

徴収アドバイザーは、国税局の経験者を採用しており、豊富な知識や経験をもとに、滞納者の財産等を処分する際の助言を行っています。滞納整理を公正かつ適切に実施することを担保するものであり、必要と考えています。とのこと。

同目、固定資産税等賦課事務について、固定資産台帳の確認と実地調査を行うことで、申告内容を精査した結果はどのようなだったか。とに対し、

未申告の償却資産を発見し、500万円程度の課税につながりました。とのことでした。

次に、令和6年度半田市モーターボート競走事業特別会計歳入歳出決算について、例年と比較し、一般会計に繰り入れた金額が大きくなった理由は何か。とに対し、

常滑市モーターボート競走事業では、利益剰余金について建設改良積立金に積み立てを行ったうえで、残額について、常滑市と半田市に対し利益処分を行ってきました。目標とする建設改良積立金の積み立てがほぼ終わったことから、令和6年5月に協議し、両市への繰り出し金が増額されることになったものです。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と2件の特別会計を採決しました。

まず、令和6年度半田市一般会計歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件について、挙手により採決した結果、賛成多数をもって認定することに決定しました。

次に、令和6年度半田市駐車場事業特別会計歳入歳出決算について採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

次に、令和6年度半田市モーターボート競走事業特別会計歳入歳出決算について採決した結果、委員全員をもって認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。